

### 新上五島町北部で分布を拡大するアントクメについて

新魚目町漁協の素潜り業者の方から、漁場に見慣れない海藻が増えているため、種類を教えてほしいとの依頼がありました。海藻はアントクメで（図1）、近年、分布が拡大しているとのことで、この海藻がどのように広がっていったのか、業者の方から教えていただきました。

業者の方が主に操業される津和崎郷東部から立串郷の漁場では、平成19年頃からアラメ・カジメ場が衰退して、ガラモ場へ変化し、平成22年頃には磯焼けになりました。その6年後の平成28年から、前島の周辺でアントクメの群落が見られるようになり、4年後の令和2年までに、分布は立串鼻の北側まで拡大し（図2）、特に、前島の東側と立串鼻の北側では、海底が見えないくらい濃密な群落が形成されているそうです。

アントクメは磯焼けになる以前からもみられていましたが、今回のように分布が拡大したことは、業者の方が素潜り漁をされている35年間で初めてのことでした。



図1 漁場に生育していたアントクメ（2020年5月31日採取、藻体長約50cm）

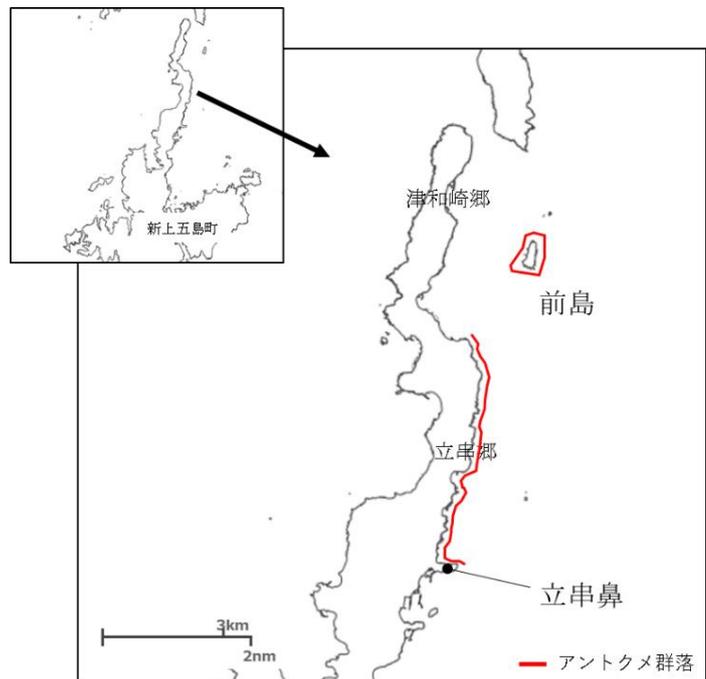


図2 2020年5月時点でアントクメ群落が見られる地点